平成17年 4月28日

平成16年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書 プロジェクトチームの代表者<u>部・講座等名:実技教育研究指導センター</u>

		氏	名	兼	重	昇
プロジェクトの名称	本学学生の実技指導能力育成に関する実証的研究 本学実地教育における実習生の教師行動観察を中心と して	配分 予算 額	1 1	600	00円	
プロジェクトの概要	本学では教員である。 なる員子でなか。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	究領ー,のェをでらと(指域ドこかク成,かそ教	尊()割うこ~2~これうと体をしつでさどしに実ン育設たいはせの,基習	タ,定実て,るよ彼づ)ー美し技,実のうらくにで術実能超技になの指お	は(技力教教必指実導け,図能・科育要導技方る小画力実的のな技能法実	学工の技に立様術力の際校作向指実場々を及改の教)上導証かな掴び善授
	実習生の普段の実習授業を観察する。観察は外部 影する。可能な限り授業者リフレクションや指導 2.子どもによる授業評価					
	観察対象として授業終了後,その授業を受けた学 的授業評価票(高橋ら,1994)を配布し学習者に					る 形 成
	3. 資料整理及び分析 録画された授業について「教師行動観察法」他を 等について実技能力・実技指導能力との相関を検 4. 附属実技教育研究指導センターの指導体制及 得られた結果を基に,各領域の体制検討と,領域 作用について検討する。	討する びグし	る。 ╱ ー ド f	制の検	討	
	< 体 育 分 野 の 場 合 > 実 技 能 力 育 成 論 受 講 者 (3名) 教 育 実 習 に お け る 体 育 授 業 の 比 較 分 析	と未受	受講者	(3名))	
成果の概要	受 講 者 の 教 師 行 動 の 特 徴 : 「 マ ネ ジ メ ン ト 行 動 が 有 意 に 少 な く 相 互 作 用 行 動 ・ フィー ド パ ッ ク 行 動 (19 . 8%)(c . f . 未 受 講者 : ・ 肯 定 的 フィー ド パ ッ ク (3 . 0%)(c . f . 未 受 講者 : ・ 矯 正 的 フィー ド バ ッ ク (16 . 7%)(c . f . 未 受 講者 :	7.1%) 0.3%)		L1 J		
	< 美術 (図 画 工 作) 分 野 の 場 合 > 4 授 業 を 記 録 し 5 実 技 能 力 の 再 定 義 が 必 要 , う ま く つ く れ る (描 け 図 画 工 作 ・ 美 術 科 専 攻 学 生 で も 「 造 形 遊 び 」 「 つ 指 導 は 困 難 , 多 様 化 す る 造 形 素 材 を 扱 っ た 経 験 の よ り も 幅 広 い 経 験 > 入 念 な 教 材 研 究 と 素 材 経 験 の 必 要 性 > グ レ ー > 模 擬 授 業 の 相 互 観 察 , リ フ レ ク ション	る) く り だ 豊 か さ	さが重き	の を つ 要 = 高	くる」	活 動 の
	< 言語(英語)分野の場合 > グレードAの指標としてのTOEIC IPの結果と小学 て 8 実習生の授業を記録し,教師行動を観察(但 グレードAとの関連性は,教師発話・発問について 教室英語の正確さ,即興性という点で上位者の方 その他,授業での発問,訂正の発言に関しては, く柔軟であった。	し 質 的 て は 違 が 柔 車	りに記う いがあ 次な対し	述) うま り 身 応 が で	見られな きる。	こいが,
	< まとめと課題 > 各実技の専門性と授業実践には,高い相関があるとは言い 但し,英語の場合「正しさ」という意味での差異はみられ である。実技能力育成論の重要性が全ての分野で指摘,教 種々の教科の共通性と相違についても広い経験が必要,模 これからの課題:今回授業記録の困難であった分野の継続 力,実技能力育成論の受講呼びかけ	る < 綿 科 ・分 擬授業 的に授	密な教林 野を超え や演習構 業記録	材研究に えた相互 幾会の増 ,中学校	こよる克朋 瓦作用のす 間が必要 この授業さ	最も可能 あり方 ≤実技能